



Challenge Zero



脱炭素、健康、快適、生産性向上を実現するワークプレイスの提供

(株)リコー

2017年4月に日本企業として初めて再生可能エネルギー100%での事業運営を目指す国際イニシアチブ「RE100」に加盟したリコー。リコーが目指すべき社会として定義するのは、持続可能な経済(Prosperity)、持続可能な社会(People)、持続可能な地球環境(Planet)の3つのPのバランスが保たれた社会(Three Ps Balance)。今回は、同社の脱炭素や生産性向上に向けたワークプレイス創出の取り組みを紹介する。

2030年度に再生可能エネルギー使用率50%達成を目指す

リコーは「環境負荷削減と地球の再生能力向上に取り組み、事業を通じて脱炭素社会、循環型社会を実現する」という「リコーグループ環境宣言」を掲げるなど、カーボンニュートラルの動きを先取りして果敢に脱炭素の取り組みを加速している。

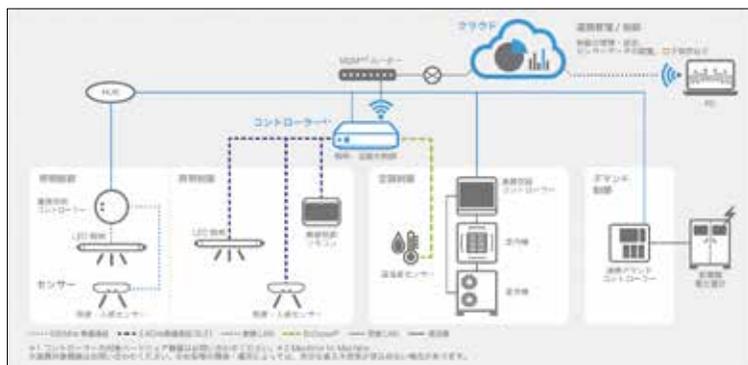
同社は「気候変動」をグローバル社会が直面している最も重要な社会課題の一つと捉え、国内再生エネ率向上と質の確保に向けた独自の再生エネ電力の評価軸を導入するなど、自社での徹底的な省エネ活動はもちろんのこと、ビジネスパートナーや顧客にも各種サービス提供などを通じて協力を働き掛けることで、バリューチェーン全体での脱炭素に向けて取り組んでいくこととしている。

今後こうした取り組みを積み上げることで、3月に引き上げた2030年度の再生可能エネルギー使用率50%達成に向け、果敢に挑戦を続けている。このような先進的な取り組みは業界のみならず国内企業への大きな刺激になると想定される。

ワークプレイスにおける脱炭素、社員の健康、生産性の向上の同時実現へ

先進的な取り組みの中核をなすのが、ワークプレイスにおける脱炭素、社員の健康および生産性向上を同時に実現する「RICOH Smart MES 照明・空調制御システム」。これは、独自のセンシング技術やクラウド技術を活用し人の動きや空間の利用状況をきめ細かにデータ分析することで、自動で照明や空調を制御し、運用の負荷を軽減しつつ時間・場所に応じた効果的な使用を実現するものである。レイアウトに合わせたフロアやグループ単位での照明制御(調光・調色)、室内温度のばらつきを抑えた空調制御が可能になるだけでなく、働く人の健康や生産性向上へとつながるというものである。もちろん、これらの自動制御を通じて無駄な電力量やデマンドを抑制することで、省エネにもなる。

今後さらに、同社はあらゆるセンシングデータを活用し、日々変化する働き方に合わせた最適なワークプレイスの活用を提案する。その一つがCO₂濃度などの空気の品質をセンサーで読み取り、そのデータに基づき外気交換を自動制御するシステムである。こうした機能向上を通じてワークプレイスの側面から持続可能な社会の実現に向けて取り組むこととしている。今後の同社の取り組みからは目が離せない。



「RICOH Smart MES 照明・空調制御システム」構成図

(国内広報部主任研究員 山本哲史)